

令和6年 礼文町新春懇談会

式 辞

令和6年1月10日

礼文町長 小野 徹

式辞、明けましておめでとうございます。

輝かしい令和6年の新春を皆さんとともに迎えることが
できましたこと、心からお慶びを申し上げます。

また、本日は、時節柄、何かとお忙しい中、「礼文町新春懇
談会」に、礼文町議会議長笹山 圭様はじめ多くのご来賓の
皆様にご臨席を賜り、衷心より厚くお礼を申し上げます。

皆様には、日ごろから町政の推進にあたり、格別なるご理
解とご支援ご協力をいただいておりますことにあらためて
お礼を申し上げる次第でございます。

迎えた令和6年も、なお一層のご指導ご鞭撻を賜りますよ
う、よろしくお願い申し上げます。

本日は、これまで3年間、新型コロナウイルス感染症の影
響から、表彰条例に基づく「功労者表彰式」のみを実施させ
ていただいてまいりましたが、昨年5月に新型コロナウイルス
感染症が「2類」から「5類」に引き下げられたことから、
4年ぶりに「新春懇談会」を開催させていただいて、その中
で「功労者表彰式」を開催させていただくこととしたところ
でございます。 ご理解をいただきたいと思います。

本日受賞された皆様は、永年にわたり、公益のためにご尽力された方々、議会議長並びに納税貯蓄組合長を務められ地方自治の進展に大きく貢献された方々、また、永年、消防団員や水難救難所々員として火災や災害、海難事故から地域を守り安心安全な地域づくりに尽くされた方々、並びに、それを陰から支えてこられた皆様方でございます。ともに、ふるさと礼文町の発展を願い、未来に向かって大きな夢の種をまかれてこられた皆様方でございます。

さらに、山形 浩 前礼文町教育委員会教育長職務代理者には、平成元年から令和4年3月まで9期33年に及ぶ長きにわたり礼文町の教育行政に多大のご尽力を賜りました。

特に、平成24年から平成30年までは教育委員会委員長として、さらに平成30年から令和4年の退任までは教育長職務代理者としてその重責を務められました。ここにその退任にあたり、感謝の意を捧げるものでございます。

あらためまして、新しい年の始まりにあたり、ふるさと礼文町の振興発展に多大なご功績を賜りました皆様様に、衷心より敬意と感謝を表する次第でございます。

これからも礼文町発展のため、変わらぬご支援ご協力を賜りますよう心からお願いを申し上げます。

さて、迎えた 2024 年は、元日の夕方 4 時すぎに、最大震度 7 の「能登半島地震」が発生して、2011 年 3 月以来の「大津波警報」が発令され、津波で住宅が流されたり漁船が転覆したり、大規模火災では「輪島朝市」周辺で 200^{むね}棟以上の家屋が焼失、ビルが横倒しになったり、各地で道路が陥没して寸断されるなど、石川県では死者が 200 名を超えるという大惨事となりました。ご冥福をお祈り申し上げますとともに、一日も早く穏やかな日が戻りますよう願うところでございます。

また、正月 2 日の夕方には、羽田空港 C 滑走路で新千歳発の日航機が海上保安庁の航空機と衝突炎上し、日航機の乗客乗員 379 人は全員避難して無事でしたが、海上保安庁の航空機に乗っていた乗員 6 名のうち 5 名が死亡するという痛ましい事故がありました。

まさに楽しい正月気分が一瞬にして消えた今年の始まり

となったところであり、何が起こるか、誰にもわからない混沌とした年の始めとなったところでございます。

2024年は「辰」年であり、特に、「甲辰(きのえたつ)」の年にあたり「発芽した植物がしっかりと形になる、勢いと大きな力が感じられることから、新しいことを始めて成功する、今まで準備してきたことが形になる、努力が実を結ぶ、そして夢が叶うと云った、縁起の良い年になると云われておりましてただけに、元日、2日と続けて起きた天災と人災(事故)は極めて残念と云わなければなりません。

それでも、辰年は大きな飛躍をする年であると云われています。ちなみに前回60年前の「甲辰(きのえたつ)」は1964年(昭和39年)アジア初の開催となった東京オリンピックが開かれ、わが国が名実ともに世界に戦後の復興を印象付けた年であります。

コロナ禍の影を脱して迎えた2024年。新たな成功をめざしてチャレンジするには最適な年と云われますので、皆さんも、それぞれに新たなチャレンジをしてみたいかがでしょう。

さて、「ブルーカーボン」という言葉をご存じでしょうか。森林などが吸収する二酸化炭素を「グリーンカーボン」と呼ぶのに対し、海藻など海の生き物を通して海の中で吸収される二酸化炭素を「ブルーカーボン」と呼び、今、注目を集めています。二酸化炭素は、地球温暖化の原因とされ、気温の上昇を抑えるためには二酸化炭素を増やさないことが重要とされており、2050年までに、排出される二酸化炭素と吸収される二酸化炭素の量を均衡させて気温の上昇を抑えようとする取組みが「カーボンニュートラル」です。

その「カーボンニュートラル」で海藻を地球温暖化防止に役立てようとするのが「ブルーカーボン」であります。

礼文島は周りを海に囲まれ、昆布(リシリコンブ)がたくさん採れる島です。

年末31日の道新から1月7日まで5回連載でその「昆布」のことが取り上げられておりました。

それは、地球温暖化、海水温の上昇で、20年後、30年後に北海道から天然コンブがなくなってしまうかもしれない…という内容でした。

すでに青森県の北端^{みんまや}三厩では何年も前から天然コンブが水揚げされていないことが報告され、道内でも、函館周辺から日高、釧路、根室までのコンブも、羅臼の「羅臼こんぶ」も、また桧山、積丹のコンブや道北の「リシリコンブ」も海の環境が変わってきて、生産が減っているそうです。

このため、「昆布だし」といわれる「日本食」「京都の味」「旨^{うま}み」が守れなくなってきていると記^{しる}されていました。

そこで、今、コンブなどの海藻類に吸収されている二酸化炭素が注目を浴びており、これを地球温暖化防止に役立てようとする取り組みが各地で始まっています。

地球温暖化の原因とされる二酸化炭素などの温室効果ガスを海藻類に吸収して、長期間にわたって海藻の中に閉じ込めることは地球温暖化対策に有効とされています。

ですから、コンブを増やす取り組みは「ブルーカーボン」と呼ばれ、「J ブルークレジット制度」として、二酸化炭素などの温室効果ガスの吸収量を算定し、二酸化炭素を排出している企業等との間で、新たな取引ができることとなります。

したがって、昆布を増やす取り組みを行っている人は新たな収入源を得ることになりますので、コンブの収入増に加え、「ブルーカーボン」の「Jブルークレジット制度」による新たな収入も入りますから、昆布漁業の安定化につながり、さらなる昆布漁業の振興発展が期待されるのでございます。

近い将来、海水温の上昇によって北海道から昆布が消えてしまうといわれますが、礼文島は北海道の最北端の島ですから、礼文島のコンブは最後まで採ることができます。ですから、今こそ、礼文島のコンブを守るためコンブの増産に皆さんのご理解とご協力をお願い申し上げる次第でございます。

健康によいと云われ、海外でも人気の「和食」に欠かせない「昆布だし」については「世界でコンブの需要はもっと増えていく。リシリ昆布はブランドとして高い評価を受けているので、輸出品として魅力的である。」とコンブ漁がもっとも「儲かる仕事」になると云われます。

これから温暖化が進む中でも、礼文島の「こんぶ」はますます需要が広がっていくと注目されているのです。

もちろん天然のコンブが望ましいわけですが、私は、年間1500万円を超える水揚げができる「養殖こんぶ」は、これから計画的な育てる漁業が実現できる「儲かる仕事」「稼ぐ仕事」になっていくと思っています。

コンブの増産をめざすと同時に地球温暖化を防止するこの「ブルーカーボン」の取組みをぜひ進めていきたいと考えているところでございます。

話を少し変えます。昨年4月から12月までの礼文町の「ふるさと納税」は3億450万円でありました。本当にうれしいことであります。一昨年の同じ時期の金額は2億1,300万円でしたから約1億円が増えているのであります。

昨年はこのあと1月から3月までで1億8千万円のふるさと納税があり最終的に3億9,570万円でした。

今年は、このあと3ヶ月で少なく見積もっても1億5千万円のふるさと納税があると予想していますので、4億5千万円にはなる見込みであります。

この4億5千万円の3割が返礼品であります。

町内の加工業者さんから全国に4億5千万円の3割、1億3,500万円分の水産加工品が全国のふるさと納税をしていただいた皆さんに送られるわけであります。

ふるさと納税が増えますと返礼品の金額も増えていきます。今は、「生うに」が人気ですが、礼文島産のりしり昆布はブランドとして高い評価を受けておりますので、これを全国の食卓にもっともっとお届けしたいと思えます。

2024年の辰年の始まりにあたり、コンブの増産とブルーカーボンという新たなチャレンジに向かっていきたいと考えています。

人手不足が進む中で、とても大変なことであると思えますが、島の元気を取り戻すために、私どももそうしたチャレンジには応えていく考えであり、“「島の絆」地域の結びつきと支えあいによる島の更なる発展をめざして”人と人とのつながりや、相手を思いやる心の大切さを大事にしたまちづくりを進めてまいります。

そして、誰もが胸を張って「礼文が好きだから」と云えるふるさとをつくるために、皆さんと一緒に新たな取組

みにも果敢にチャレンジしてまいります。

新春を迎え、長かったコロナ禍からいろんなことがリセットされ、更に上^{のぼ}っていく勢いのある年にしたいと思っていますので、あらためて皆さまの尚一層のご理解とご支援ご協力をお願い申し上げる次第でございます。

結びに、皆様にとりまして、今年一年が、明るく素晴らしい年となりますよう心からご祈念申し上げます、「礼文町新春懇談会」の式辞といたします。

令和6年1月10日

礼文町長 小野 徹